

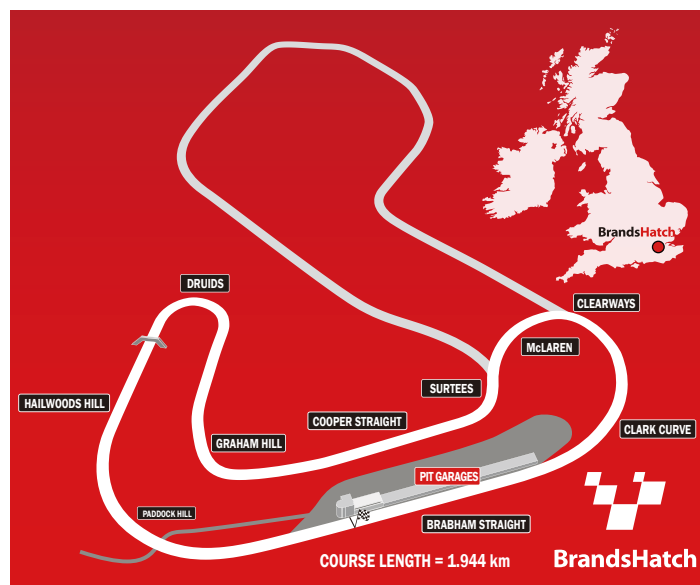


全てに秀でたパフォーマンスを見せた
チーム
スイフト
SWIFT / ANNING組が勝利。

7月17日(日)ブランズハッチのスターティンググリッドに13台のヒストリックレーシングミニが帰って来た。まだまだ日が高い英国の夏、15時04分オールレッドシグナルと共に『2016三和トロフィー決勝』の幕が切って落とされた。

ポールポジションは、今季メキメキ腕を上げてきた Nick Paddy (#77)、2 番手は昨年の覇者 Nick Padmore (#56)、3 番手はチームスウィフトの Nick Swift (#21)、続いてミニミグリアで活躍中の Dan Wheeler (#2)、後方からは一昨年の覇者、トップギアのスティグこと Stig Blomqvist (#12) が窺うという強豪がひしめく中、好スタートを決めたのは 8 番手の Steve Jones (#84) と Stig で、それぞれ 4 位、5 位にジャンプアップ。これに対しスタートに失敗したポールの Paddy は 8 位へ転落。バンパー to バンパーで美しいボディの MK1 クーパー S が全開で第一コーナーに飛び込んでいく。先頭に躍り出た Swift は序盤から 1 分 0 秒を切らんばかりのハイペースで後続との差を広げていく。着実に順位を上げていったのは Stig で、3 周目で早くも 3 位に浮上したかと思いきや、メカニカルトラブルで 5 周目にピットインを強いられる。Swift、Wheeler、Padmore、O'connor (#99) の隊列を成し周回を重ねていく。動いたのは 14 周目に突入するホームストレート。Padmore が Wheeler をパスして 2 位に浮上、その直後コントロールラインを超えた同じストレートで今度は Jones が O'connor をパスして 4 位と激しい闘いが繰り広げられる。

最初に動いたのは9位を走るPaddy。17周目にピットインして、規定の45秒ピットストップをクリア。続いて19周目には Wheeler が Endaf Owen (#2)へチェンジ、Jones は単独ピットストップを、その後も O'connor が Downing (#99)へ、Padmore が 父の Keith Padmore (#56) へ、Swift が Phil Anning (#21) へと上位陣が次々とドライバーチェンジを済ませる。隊列が整



った22周を終えた時点で怒涛の追い上げで5位に浮上したのは、現在ミニグリア選手権で活躍中の Bill Soils (#77)。24周目には『58"460』のファーステストを記録し3位まで登り詰める。7位を走行していた SIME 親子 (#25) はピットインの所要時間が僅かに足りず、ペナルティの再ピットインが課せられ惜しくも上位争いから脱落となった。終盤に素晴らしい走りを見せたのはロック歌手の Brian Johnson (#38)。あれよあれよという間に5位に浮上し観客を沸かせた。

そして、トップでフィニッシュしたのは、常に59秒台の安定した走りと冷静なピットストップを熟し、全てに秀でたパフォーマンスを見せてくれた Nick Swift / Phil Anning 組が2016年三和トロフィー耐久レースを制したのであった。熱い闘いが終わって、観客は総立ちで全車に惜しみない拍手を送っていた。

2016 Sanwa Trophy - Lap Chart

Weather / Track : Cloudy / Dry

